

いきいき、のびのび仲間と共に学び合う学校生活の実践

確かな学力と自立する力の育成—一人一人を確実に伸ばす教育の推進—

◆ 所属・提案者（◎代表者）

ふじみ野市立西原小学校

◎河合 隆弘

ねらい

本実践は、一人一人のよさを認め、相手を思いやる気持ちを育てるとともに、自分で考え、自分で学ぶ「生きる力」でもある、自立する力を発達段階の違う異年齢集団の中で育成しようとする実践である。本校は、入学児童の減少に伴い、年々クラス数の減少とともに単学級による学年編成を余儀なくされている。その結果、学年内による小集団の関係に固執してしまい、人間関係、道徳観、倫理観も狭い範囲での形成に留まってしまう。そこで、異年齢集団での関わりを通し、ねらいに迫りたいと考え、本実践に取り組む。

実践内容

縦割り班を生かした活動

① 全校遠足における縦割り活動

年度当初の学校行事である全校遠足において、縦割り活動を取り入れる。年間を通して活動する仲間を意識して事前学習から共に学び行動していく事で、上級生には自覚を促し、下級生には、見て学び、自分でできる事を増やし、これから一緒に活動していく班への所属感を持たせる。

③ 清掃・給食の時間における縦割り活動

・毎日の清掃活動：低学年の児童に上級生が教える姿が目につき、また、下級生がいる事で、自覚を持って清掃活動に取り組むようになった。
・給食：給食の方法を教えていく事で、効率の良い準備・片付けの習得とともに、双方のマナー向上に繋がった。



② 朝の活動時間における縦割り活動

・毎週行っている読み聞かせの時間において縦割りグループで活動を行った。担当者が題材を考え、練習に臨むことで、自分の役割を自覚させる。
・週2回行われる国語・算数スキルタイムと称する基礎学力を身に付ける時間に、各学年の課題プリントを持ちよって、自主学習を行う。
・活動を繰り返していくことで、信頼関係が生まれ、ミニ先生として活動する上級生の自信が生まれるとともに、下級生には、できた事を称賛してくれる事で、自発性が生まれ、相乗効果をもたらし、ますます信頼関係が深まる。



④ 西原タイムにおける縦割り活動

・上級生を中心に企画運営をする事で、下級生への思いやりを育てるとともに、みんなが楽しめる遊びにおける注意事項等多くの学習をする事ができる。また、下級生は、楽しみながら、自分の役割を自覚していく。

⑤ 諸行事における縦割り活動

一年生を迎える会から始まり、6年生を送る会等の各行事において出し物を披露したり、入場する際や座る座席を指定したりする等、グループで行う場面を設定した。上級生の姿を見て学ぶ下級生がいることで、上級生は自覚を身に付け、下級生は自主性を学ぶ、良い相互関係を作る。

実践時期・期間

- グループ構成・・・4月中旬
- 全校遠足・・・4月下旬
- 朝の活動、清掃・給食、西原タイム・・・4月中旬～3月
- 各行事・・・4月下旬～3月



※加工してあります。

←これから1年間グループで活動する仲間

実践の成果や課題

【成果】

- ・良い信頼関係が生まれ、関わり合いが増えたことでコミュニケーション能力が向上した。下級生の中でも自分や仲間が楽しむために、誘い合いや教え合う様子が多く、自主的に活動する姿が見られる等、自ら考えて行動に移せる場面も全体的に増えた。
- ・自分だけでなく、仲間を意識して行動してきたことで、思いやりの輪が広がり、高学年には自覚が見られる行動が多くなった。下級生の面倒を見ていく中での自覚だけでなく、時と場合によって、声掛けの表現を変える等、考えて行動できる場面が増えた。

【課題】

- ・グループ構成時に、配慮事項を全校で統一して取り組んだが、一部のグループでは固定化した関わりが見られたため、教員の働きかけが必要になったグループがあった。更なる共通理解の徹底を行いたい。
- ・リーダー教育をするための時間と場所の確保が難しい。担当の教員によって、指導が違っては効果的な活動ができないため、統一していかなければならない。

セールスポイント

明確なめあてと反省を繰り返すための活動ノートを活用したことで、児童自身が定期的に振り返ることができた。各担当教師が見届けることで、児童相互の信頼関係の構築や自主性の一助とできた。



←毎回、担当の先生にチェックをもらいます。



他校で導入するポイント

- ・グループ構成をする際には、配慮が必要な児童や兄弟関係、本年度以前の同一学年または他学年との対人関係を知る必要がある。そのため、各担任はグループ構成をするまでの短い時間の中で、まずは児童理解に努めなければならない。新しく異動してきた教員や新しい担任に対する引継ぎが重要となり、学校としてのシステムが大切である。

グループ構成を行ったものは、各クラス見やすい所に掲示→



失敗しないための方策

- ・グループ構成をする上で、仲の良い児童同士が固定した小集団を作る等、一部の関わりだけが強まらないように、グループの人選を考慮していかなければならない。
- ・年度当初の職員会議において、共通した認識を持ち指導・支援の確認を行う。
- ・計画的にリーダーを育成するため、全教員の共通理解の基、その時期、内容をマニュアル化する。
- ・各取組における学年毎の「ねらい」が明確にし、評価を行う。

ふじみ野市立西原小学校
縦割り活動 年度当初共通文書 (1/27)

←年度当初の共通理解を図るための資料

こうすればより高い効果が得られる方策など

- ・各行事での活動をより効果的にするため、各行事のねらいと内容を吟味し、何を子ども達に考えさせ、どんな支援をすることで目標に迫れるのかを各部と連携し実施する。運動会における縦割り競技、縦割りによるグループ編成、応援等
- ・グループ編成において6年生の人数を少なくする。
- ・リーダー育成の観点から、下級生の意見を聞く場面を設定する。(教師は見守り、リーダーをほめる。)

外部有識者からのコメント

意図的・計画的に子供たちのよりよい人間関係を築く上で大切な取組である。ただ、朝の学習活動で、上級生の方が分からないということのないように十分に配慮することが大切であろう。先生方はどうしても学級・下学年への意識が高くなりがちであるが、縦割り活動を通して、学校全体への意識が高まるという点で有効である。その学校の課題に対して、この縦割り活動がどういう教育的意味があるのかを、実践レベルで、各教科・領域へ波及させることがさらに進むと、素晴らしい実践になる。エビデンスが見えにくいですが、示しながら改善していくと、活動の精緻化を図ることができるのではないかと。